

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.

1. Title of Device

A Separated Wireless Receiver

2. Claims

(1) A separated wireless receiver comprising: a receiver part for receiving wireless waves through an antenna and an output part for converting received signals by said receiver part to a format which is able to be identified, wherein said receiver part and said output part of said wireless receiver are separated and are connected by a connection cable and said output part is disposed with a power part such that power current from said power part is applied to said receiver part and outputs from said receiver part are applied to said output part.

(2) The separated wireless receiver of claim 1, wherein said connection cable comprises a two-core cable.

(3) The separated wireless receiver of claim 1, wherein said antenna is directly connected to said receiver part.

公開実用 昭和63- 33225

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-33225

⑪ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)3月3日

H 04 B 1/08
3/54

N-6745-5K
7323-5K

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 分岐型無線受信機

⑮ 実 願 昭61-126920

⑯ 出 願 昭61(1986)8月20日

⑰ 考 案 者 清 水 正 澄 神奈川県川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士通ゼネラル内

⑱ 出 願 人 株式会社富士通ゼネラル 神奈川県川崎市高津区末長1116番地

⑲ 代 理 人 弁理士 大原 拓也

明 細 書

1. 考案の名称

分離型無線受信機

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) アンテナを介して無線電波を受信する受信部と、この受信部で受信した信号を識別可能に変換する出力部とを有する無線受信機において、前記受信部と前記出力部とを分離し、両者間を接続ケーブルで接続し、かつ前記出力部に電源部を設け、前記接続ケーブルにより、前記電源部の電源電流を前記受信部に印加するとともに前記受信部からの出力信号を前記出力部に印加するようにしたことを特徴とする分離型無線受信機。

(2) 実用新案登録請求の範囲第1項において、前記接続ケーブルは二芯ケーブルで構成されていることを特徴とする分離型無線受信機。

(3) 実用新案登録請求の範囲第1項において、前記アンテナは前記受信部に直接的に取付けられていることを特徴とする分離型無線受信機。

3. 考案の詳細な説明



〔産業上の利用分野〕

この考案は、無線受信機に関し、特に詳しく言うと、受信部と受信部からの信号を音声あるいは表示信号等識別可能に変換する出力部とを分離し、その間を接続ケーブルで接続した分離型無線受信機に関する。

〔考案の技術的背景〕

アンテナを介して無線電波を受信し、音声信号や表示信号に変換する無線受信機は各種提供されている。携帯型の無線受信機にあっては、アンテナ、受信部そして出力部を一体に構成しているが、固定型の場合は、アンテナを見通しの良い場所に設置し、受信部と出力部とを一体にしたものを屋内に設置し、その間を空中線ケーブルで接続している。一方、無線通信においては、数W以上の高出力の電波とは別に、数mW以下のいわゆる微弱電波を利用した無線通信が種々の分野で利用されている。このような微弱電波においては空中線ケーブルが長いとケーブルロスにより受信信号が減衰し受信部では受信不能になることがある。その

ため比較的ケーブルロスが少ない同軸ケーブルを
接続ケーブルに用いるとともに、極力アンテナと
受信部間の距離を短かくするようにしている。

〔考案が解決しようとする問題点〕

しかしながら、同軸ケーブルは直径が太く、建
物の内と外を通す時に壁等に大きな挿入孔を設け
る必要があり、配線工事が大がかりになる。更に、
アンテナと受信部間の距離に制限されるため、そ
れらの設置場所も限られてしまう欠点がある。

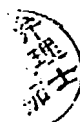
そこでこの考案の目的は、上述したような微弱
電波の受信でも減衰することなく受信でき、かつ
アンテナとの距離に拘束されることがない無線受
信機を提供することである。

〔問題点を解決するための手段〕

この考案の分離型無線受信機は受信部と出力部
とを分離し、両者間を接続ケーブルで接続し、か
つ出力部に電源部を設けたものである。

〔作用〕

接続ケーブルにより電源部の電源電流を受信部
に印加するとともに、受信部からの出力信号を出

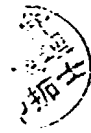


力部に印加するようにしているので、アンテナと受信部のみを屋外に設置し、出力部を屋内等に設置し、その間を接続ケーブルで接続すればよく、アンテナと受信部間の距離は最短に設定できるので、従来のように受信電波の減衰等は防止できる。

〔実 施 例〕

以下、この考案を図面に示す実施例について説明すると、アンテナ1は受信ケース2上にその下端が保持されている。アンテナ1は受信ケース2内の受信回路ユニット3と図示していないが電気的に接続されている。受信ケース2には設置台や建物の壁等に取り付けるため取付穴4を有する取付フランジ5が固着されている。

受信回路ユニット3からの出力信号は二芯ケーブル6を介し、交流もしくはパルス信号として屋内等に設置された出力部筐体7内の出力回路（図示しない）に接続されている。出力部筐体7には電源ランプ8および受信回路ユニット3からの出力信号を文字や数字で表わす表示部9が設けられている。10は電源コードで、この電源コード10か



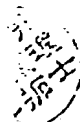
らの電源は、二芯ケーブル6を介して適宜な直流で受信回路ユニット3に加えられる。

以上のように、アンテナ1と受信回路ユニット3を内蔵した受信ケース2は直接的に取付けられているので、アンテナ1からの受信信号は減衰することなく受信回路ユニット3に入力させることができる。受信回路ユニット3からの出力信号は二芯ケーブル6により出力部筐体7内の出力回路に加えられる。受信回路ユニット3の電源はこの二芯ケーブル6によって出力回路側から加えられる。したがって屋内と屋外を結ぶケーブル6は低圧の直流分と信号が流れるだけであるので円軸ケーブルより直径の小さいケーブルでよく、配線施工等は極めて簡単になる。

上述実施例ではアンテナ1は受信ケース2に直接的に取付けられているが、アンテナ1と受信ケース2を分離し、その間は従来のように同軸ケーブル等で接続してもよいことは勿論である。

〔発明の効果〕

以上のように、この考案の分離型無線受信機は、



受信部と出力部とを分離し、受信部から出力部への出力信号および受信部への低電の直流電源供給を接続ケーブルにより行うようにしているので、このケーブルは二芯ケーブル等同軸ケーブルより細いケーブルが利用できるので、窓やドアの隙間等を利用して配線できるので、配線工事が簡易にできる。また受信部に電源回路を必要としないので、受信部は小型化できる。更に、受信部からの信号を出力部に送るためケーブル長さはアンテナと受信部間のケーブルに比べて長くすることができるので、アンテナ等の取付位置を広く選択することができる。

4. 図面の簡単な説明

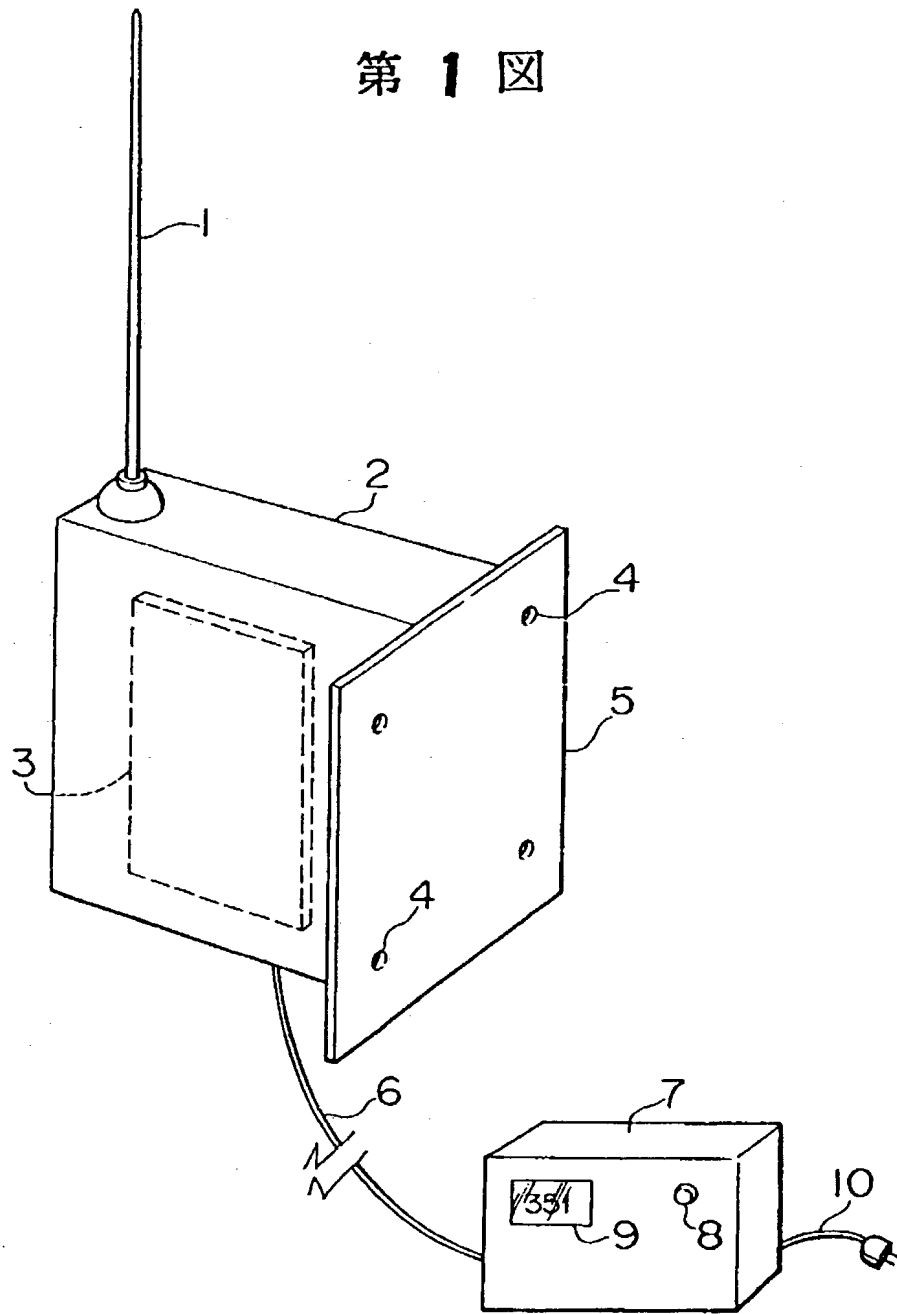
第1図はこの考案の一実施例を説明するための説明図である。

図面において、1はアンテナ、2は受信ケース、3は受信回路ユニット、6は接続ケーブル、7は出力部筐体、10は電源コードである。

実用新案登録出願人 株式会社富士通ゼネラル

代理人 弁理士 大原 拓也

第 1 図



新案登録出願人 株式会社 富士通ゼネラル
 ; 理 人 弁理士 大 原 拓 也

233

昭和 35. 11. 22